

第10期 第5回 平井川流域連絡会議事要旨

- 日 時：令和2年11月12日（木）14：00～16：00
- 会 場：あきる野ルピア3階 ルピア産業情報研究室
- 出席者：公募委員及び公募団体委員 3名 / 行政委員 9名（うち1名代理者出席）
- 配布資料

- 資料1 新規行政委員の紹介
- 資料2 第10期後期の活動報告（現在まで）及び令和2年度活動（案）について
- 資料3 外来種（オオブタクサ）対策について
- 資料4 令和元年台風第19号被害及び復旧状況報告
- 資料5 令和元年度生物調査結果
- 資料6-1 整備工事予定
- 資料6-2 しゅんせつ工事予定
- 資料6-3 河川内樹木の管理
- 資料7-1 魚類の出現種と比率
- 資料7-2 くず群落比較（H25, H30）
- 資料7-3 ツルヨシ植生が根付かなかった要因
- 資料7-4 袋型根固工

■議 事

1. 開 会

事務局より開会の挨拶と配布資料の概要説明を行った。

座長より挨拶

新規行政委員の自己紹介

2. 第10期後期の活動報告及び令和2年度活動（案）について

事務局より資料2に基づき「第10期後期の活動報告（現在まで）及び令和2年度活動（案）について」説明

- ・第10期の活動方針を踏まえ、令和元年度は外来種のオオブタクサ対策を2回、流域連絡会を1回開催した。第10期は平成30年度にスタートし6回の流域連絡会を計画していたが、昨年7月9日に第4回流域連絡会を開催して以降、令和元年10月に発生した台風19号による被災対応のため、令和2年になってからは新型コロナウイルス感染防止のため、第5回の流域連絡会は本日まで延期となっていた。

○市民委員

- ・今年、オオブタクサの駆除を8月1日に行ったのは良かったと思う。少し時期を早めたのでオオブタクサはだいぶ刈れたが、今年は台風の影響なのか同じ外来種のアレチウリとカナムグラがひどかった。
- ・カヤネズミの巣はアレチウリとカナムグラで覆われるのを逃れた法面で見つかった。

3. 外来種（オオブタクサ）対策について

事務局より資料3に基づき「外来種（オオブタクサ）対策」について説明

- ・昨年7月の第4回流域連絡会以降では、昨年8月24日と今年の8月1日に瀬戸岡御堂橋上流で外来種対策を実施した。
- ・概ね2時間の作業で、刈った草は管理用通路に運び出し、後日東京都で処理をした。

4. 令和元年台風第19号被害及び復旧状況報告

西多摩建設事務所より資料4に基づき「令和元年台風第19号被害及び復旧状況報告」について説明

- ・令和元年10月12日から13日にかけて関東地方を襲った台風19号では過去に類を見ない大規模な降雨となり多くの災害が発生した。
- ・西多摩建設事務所が管理する河川では92か所の被害を受けたが順次復旧作業を進めており、現時点で89か所の復旧が完了している。
- ・特に被害が大きかった秋川の4か所（小和田グラウンド、山田大橋下流左岸、引田橋上流左岸、秋留橋下流右岸）と平井川の1か所（堀口橋上流）について報告する。

○市民委員

- ・被害を受けた箇所が92か所で、そのうち89か所の復旧が完了しているとのこと、どうもありがとうございます。
- ・92か所の被災箇所というのは護岸に穴が空いた箇所やコンクリートがはがれた箇所など比較的軽微な損傷も含めた数なのか。
- ・平井川の下流の方で甚大な被害と示された箇所がどこで、どんな復旧工事が行われたのか。
- ・今回の台風19号でかなりの人工構造物が流されて、川の途中でそのまま居座っているところがある。それは仕方がないと思っているがそれについての考えを教えてください。
- ・何回も質問し恐縮だが尾崎橋上流左岸の水位計は平常時には数値が上がってこない状況になっている。普段はどの程度の水位なのかを見たいが、今後の計画があれば教えてください。

◇西多摩建設事務所

- ・護岸の法面に穴が空いている箇所など比較的軽微な傷が見られるような護岸についても、被害を把握しているものについては復旧している。また、西多摩建設事務所では年に1回護岸の点検を行っているので、今回見落としがある箇所についても損傷が確認できれば対応していきたい。
- ・平井川下流の被害について、甚大な河川被害として多西橋下流の左岸と新開橋下流の右岸の2か所をあげた。
- ・根固めブロックなど、流出している構造物は平井川だけではなく秋川でも見られており、今後対応が必要であることは認識しているが、まずは優先的に対応が必要な箇所があるため順次検討していく。

- ・尾崎橋の水位計は水防の目的で設置した水位計ということもあり、洪水時には水位を計測できるが普段の水位は測れない状態にある。尾崎橋は現在、水防上注意を要する箇所ではないので水位計については移設を含めて検討している。

○市民委員

- ・復旧が完了した89か所というのは土のうを積んだだけというような箇所も入れた数なのか。
- ・平井川について、東京都としては溢水はしていないという判断をしているのか。近所の人は台風19号では溢水が発生したという認識だが、なにか定義があって平井川は溢水していないという行政上の判断になっているのか。

◇西多摩建設事務所

- ・92か所というのは今年度着手をして完了する予定の箇所で一部は仮復旧ということにしている。ただ、土のうを積んで仮復旧としているところは多西橋下流くらいで、その他は全て本復旧で行っている。
- ・床下浸水、床上浸水については市町村が統計を出しているが、溢水箇所は溢水に伴って被害があったかどうかで判断していると聞いている。

○市民委員

- ・水の痕跡を含めて溢水しただろうと思われる箇所は平井川ではあるか。

◇西多摩建設事務所

- ・いくつかはある。高瀬会館の下流の裏は吹き寄せによる影響のほうが大きいと考えている。他に、日の出町の東平井橋上流の右岸がある。この箇所は護岸の上に柵板が設置してあるが水はその柵板を超えたわけではなく、柵板が浮力で浮いて柵板の下から漏水したような状況と思われる。

○市民委員

- ・翌日に歩いてみて、一番多く溢水したと感じた箇所は新開橋上流の右岸、秋川病院の下辺りだ。川に降りていく階段のところから水が来たのかなという感じがする。地元の話では20年くらい前にそこの護岸がえぐられたことがあるということだ。

○市民委員

- ・継続して行ってきた改修の効果を検証してデータ化することはやっていないのか。

◇西多摩建設事務所

- ・区部の中小河川の調節池などは費用対効果についての資料を作ったりするが、改修を随時やっていくような河川については、広げた分だけの効果はあるので特に検証はしていない。

5. 令和元年度生物調査結果

西多摩建設事務所より資料5に基づき「令和元年度生物調査結果」について説明

- ・平成31年度も多摩川の合流点から岩井橋までの11.3キロ区間と近年工事をした事業エリア2キロ区間について生物調査を行った。
- ・11.3キロ区間では、魚類と底生動物について既往成果（平成26年度）と今回調査（平成31年度）との比較を行った。
- ・河川改修を行うと、多少粗度が減って流れが良くなるため流速が上がり、少し人工裸地が増えやすい傾向があるようだ。また、台風の後には人工裸地が増えており生物、植物の種類の増減は工事に伴う増減と台風の影響による増減があると推測される。
- ・事業エリア2キロ区間については、菅瀬橋下流区間、菅瀬橋上流～尾崎橋下流区間、圏央道上下流区間、日の出橋下流区間の4つの区間の事前・事後の調査結果をまとめている。

○市民委員

- ・魚類に関しては、本来平井川にいたはずの魚が減り、昔はあまりいなかった魚と入れ替わってしまったのではないかという感想を持った。工事だけの影響ではないと思うが工事との関連性についての考察があれば教えてほしい。
- ・底生動物の調査結果から、確実ではないが環境指標としては少し下がっているのかなという印象を持った。種比率を出しているがそれがどう評価されているかについて教えてほしい。
- ・植生の変化については調査結果を実感として感じる。
- ・台風で一度裸地になってしまっても根が残っていれば復活するが、工事で失われてしまうと戻らないのかなという印象だ。
- ・普段、子どもたちと観察したりしていても魚が減ったなという印象があり、それが今回の調査結果でも出ていると感じる。

◇西多摩建設事務所

- ・工事の影響をどのように判断するかは難しいが、調査結果からは魚種の変化は平井川全域における話なのではないかと思う。
- ・底生動物に関しては、平成31年度の調査で採取されている種類が増えると、川環境のランクが下がるとの考察はない。すぐに評価するのは難しいと思う。
- ・平成31年度の調査で自然裸地になっているところがあるが、川の端の流れが遅い部分に植生が残っていれば、夏までの間に植生が戻りやすいといえる。
- ・今回のような大洪水では大きな礫が流れてくるが、小洪水や中洪水を繰り返すうちに細粒分が溜まっていき植物が根付くような環境になるので、傾向をみながら調査を継続していけたらと考えている。

○市民委員

- ・魚類について、河川工事の影響の有無をこの調査結果だけで判定するのはなかなか

難しいと思うが、平成26年度と平成31年度の調査結果を比べると、工事をしていない上流の調査地点の結果は下流の調査地点の結果と少し傾向が違うのかなと思った。

- ・底生動物についても少し影響があるのかなと思った。もちろんこれだけで決められるものではない。

◇西多摩建設事務所

- ・今後は調査範囲をもう少し上流側にシフトさせていきたいと考えている。

6. 工事予定等についてほか

西多摩建設事務所より資料6-1～6-3に基づき「整備工事予定」、「しゅんせつ工事予定」及び「河川内樹木の管理」について説明

○市民委員

- ・これから工事が進んでいく範囲についてももれまでと同じような形で調査を進めてほしい。

◇西多摩建設事務所

- ・今後工事を行う予定の箇所を中心に調査していきたいと考えている

○市民委員

- ・河道内の樹木の伐採については、いつもいろいろな意見が出るが治水の面で必要だということは十分認識している。
- ・南小宮橋から新開橋の辺は子供の遊びに利用する頻度も高いので下流のほうから様子見ながら切ってほしい。河川内の樹木の伐採スケジュールはどう考えているのか。

◇西多摩建設事務所

- ・まずは下流からやっていきたいと考えている。予算の関係もあるので調査を踏まえてバランス見ながら進めていきたいと考えているが、水衝部など危険度が高いところは優先的に進める。

○市民委員

- ・去年の台風19号の影響でかなりの樹木が倒れて、橋の橋脚のところに引っかかっているのを見たので、川の流れに近いところの樹木については伐採を考える必要があると思っていた。
- ・皆で歩いて状況を確認しながら、樹木の伐採について考える必要があると思っていた。

7. 第4回平井川流域連絡会で出された質問の回答

西多摩建設事務所より資料7-1～7-4に基づき第4回平井川流域連絡会で出された

質問に対する回答

- ・魚類の出現種については、平成29年度、30年度、31年度の調査結果をまとめた表とグラフを作成した。
- ・クズ群落については、平成25年度と30年度の群落範囲をマッピングしたものを作成した。多摩川合流点～岩井橋の範囲では5年間で約20%減少している。
- ・ツルヨシ植生が根付かなかった要因として移植場所の地盤高が低かったことが考えられる。
- ・根固工については、これまで様々な意見を踏まえて選定してきた。現在は新しい製品がいくつか出ているので改めて提案をしていきたいと考えている。

○市民委員

- ・クズの群落について減少していると感じたのは平成25年と比べてのことで今回の調査結果とは時間的な差がある。
- ・ツルヨシについて回答してもらったが質問はオギについてだったと思う。

◇西多摩建設事務所

- ・確認します。

7. 閉 会

事務局より次回の予定と資料の扱いについてをお願いをして閉会を宣言。

以 上